

2016年1月14日

## 第677回 本委員会の主要議題と概要

日本化学繊維協会

日本化学繊維協会（会長 鈴木 純 帝人株式会社 代表取締役社長執行役員 CEO）では、本日11時より第677回 本委員会を開催しました。

主要議題およびその概要は以下の通りです。

### 1. 日仏繊維協力WGについて

12月1日（火）に東京で開催した、第3回日仏繊維協力WGの概要について報告がありました。

- ・日本側19名（経産省、化繊協会、繊維学会、日本ファッション・ウィーク推進機構）、フランス側7名（生産復興省、繊維クラスター、在日フランス大使館他）が出席して、前回WG（2014年7月7日）以降の活動成果を確認するとともに、3月にパリで開催したワークショップで取り上げた、①スマートテキスタイル、②リサイクル、③ファッション分野の交流、④BtoB ミーティングの推進を中心に、報告及び意見交換を行い、折り返し地点にある日仏繊維協力の今後について協議しました。
- ・今後は、モビリティ、建築、ヘルスケア、アパレル等の幅広い分野で期待されているスマートテキスタイルを両国共通の関心分野として、日本の先端繊維素材とフランスの先端アプリケーション技術のマッチングによる、グローバルな共同市場開拓の可能性を引き続き追求するため、繊維以外の幅広い業種の企業も巻き込んで、セミナーやBtoB ミーティングなどを通じた交流を活発化・深化することとしております。

### 2. 第29回複合材料セミナーについて

炭素繊維協会委員会は第29回目となる複合材料セミナーを開催します。今年のテーマは「社会を支えて明るい未来を拓く夢の素材、炭素繊維」です。

既に社会に浸透・貢献している炭素繊維が、明るい未来に向けた更なる発展を期待されている状況を踏まえ、国家プロジェクトとして取り組まれている基礎的な研

究から、航空機・自動車といった応用と展開までの紹介を行います。また最近注目されている3Dプリンタによる複合材成形といった興味深いテーマも設定しました。

日時：2016年2月23日（火）10：00～17：00（セミナー）

17：20～19：20（懇親会）

会場：コクヨホール（東京/品川駅港南口（東口）徒歩5分）

プログラムなど詳細は下記 URL をご参照ください。

<http://www.carbonfiber.gr.jp/>

プレスの皆様を複合材料セミナーへご招待いたします（参加費不要です）。  
当日に直接ご来場ください。

### 3. 第3回先端繊維素材シンポジウムについて

「日本の化繊産業の先進性と先端繊維素材の未来社会への貢献」をテーマにした発信事業として「先端繊維素材シンポジウム」を過去2回開催していますが、この度、第3回目となる先端繊維素材シンポジウムを2016年6月2日（木）13:00～18:30、日経ホール（大手町）にて開催することを決定しました。

- ・情報通信技術の急速な発展と、IoTやビッグデータ等の活用による産業形態の進化は、極めて高度なものづくりやIT社会の実現をより現実的なものとしつつあり、先端繊維素材分野においては、スマートテキスタイルやeテキスタイルをはじめとして、その実用化が大きく期待されています。
- ・2030年のスマート社会の実現に向けて、先端繊維素材が多くの産業分野（モビリティ、住宅・インフラ、医療・ヘルスケア、機能性衣料等）の開発において、ソリューションを提供し、キー素材としての役割を演じることをアピールする狙いで、第3回シンポジウムのテーマは「スマート社会の実現と先端繊維素材」とすることとしました。
- ・IoTやビッグデータ活用の第一人者による基調講演の他、主要な産業分野から最前線の研究者や有識者を招き、先端繊維素材の未来を展望します。
- ・さらに、シンポジウム当日は、化繊メーカー並びに関係団体（10社・機関（予定））の展示ブースや商談コーナーを設置して、先端繊維素材の実物、最新情報をご覧いただけるようにする他、BtoBの仕掛けづくりも行うこととしています。
- ・第3回先端繊維素材シンポジウムのプログラムや参加申込み方法などの詳細は、

4月26日（火）の記者懇談会でご案内します。

#### **4. エコプロダクツ展 2015 への出展報告**

第17回目となる「エコプロダクツ 2015」が昨年12月10日（木）～12日（土）の3日間、東京ビッグサイトにて約17万人の来場者を集め、盛大に開催されました。

- ・化繊協会コーナーでは、「クールな未来を支える化学せんい」のテーマで、12回目となる展示を行いました。
- ・環境に役立つ高機能・高性能繊維への関心は一般層・ビジネス層を問わず年々高まっており、より詳しい説明を求める来場者が増えてきていることから、前回も好評だった「教室形式」のブースとして、一日あたり7回「化学せんいおもしろ実験教室」を開催。3日間計350人が参加して盛況でした。
- ・この他、化繊協会コーナーでは、会場内エコツアー「素材の力で未来を変える」を活用したPR、学習まんが「大研究！化学せんいのちから」の読書スペースの設置、高機能・高性能繊維素材の実験動画（サイエンスシアター）の映写など、今回も多くの来場者にPRしました。

#### **5. 2015年の内外の化学繊維生産動向について**

2015年の世界の化学繊維生産動向について、日本化学繊維協会が各国の至近の発表値をもとに推定し、その報告を行いました。概要は以下の通りです。

2015年の世界の繊維生産は前年比1%増の9,059万トと史上最高を記録しました。化学繊維は中国の2桁増を反映し、7%増の6,647万トと過去最高となりました。内訳は合繊（オレフィン繊維を除く）が8%増の6,139万ト、セルロース繊維（アセテート・トウを除く）は近年、大幅増が続いていた中国の増加ペースに一服感がみられたことから世界全体で1%増の508万トにとどまりました。繊維全体に占める化合繊のシェアは、綿が13%減と大幅に減少したこともあって、前年の69%から73%に上昇しました。

2005～2015年の年平均伸び率で見ると、綿がマイナス0.6%であったのに対し、合繊が6.2%、セルロース繊維が7.4%と高い伸び率を示しました。

化学繊維の国・地域別生産は、中国が3年ぶりの2桁増となる12%増の4,843万トと大幅に増加し、世界生産に占める比率も前年の70%から73%に拡大しました。その他の主要生産国・地域はいずれも減少したことから、中国への一極集中傾

向が続いています。

主要品種では、ポリエステルおよびナイロンは 5～9%増となったのに対し、アクリルステープルは横ばいでした。

<本件についての問い合わせ先>

担当：日本化学繊維協会 技術グループ 兼 業務調査グループ 川名 (03-3241-2312)

以上